

護衛艦機械室

防

火

実

習



10月18日と20日に防火実習を行いました。海曹予定者課程における防火実習の目的は防火作業の一般的知識を理解し、簡単な消火作業の指揮ができることであり、新入隊員の防火実習が火に対する恐怖心をなくすことが主な目的であることに対し、ランクアップした内容の実習だと言えます。





午前中は防火衣やS C B A等の各種装備の装着法、午後から行う実際に火をつけての消火作業の手順の確認を実施しました。S C B Aとは、自給式空気呼吸器のことで、高圧空気容器（ボンベ）から供給される高圧空気により、装着者が周囲の空気とは無関係に呼吸できる装置で、火災現場に進入する者が着用します。



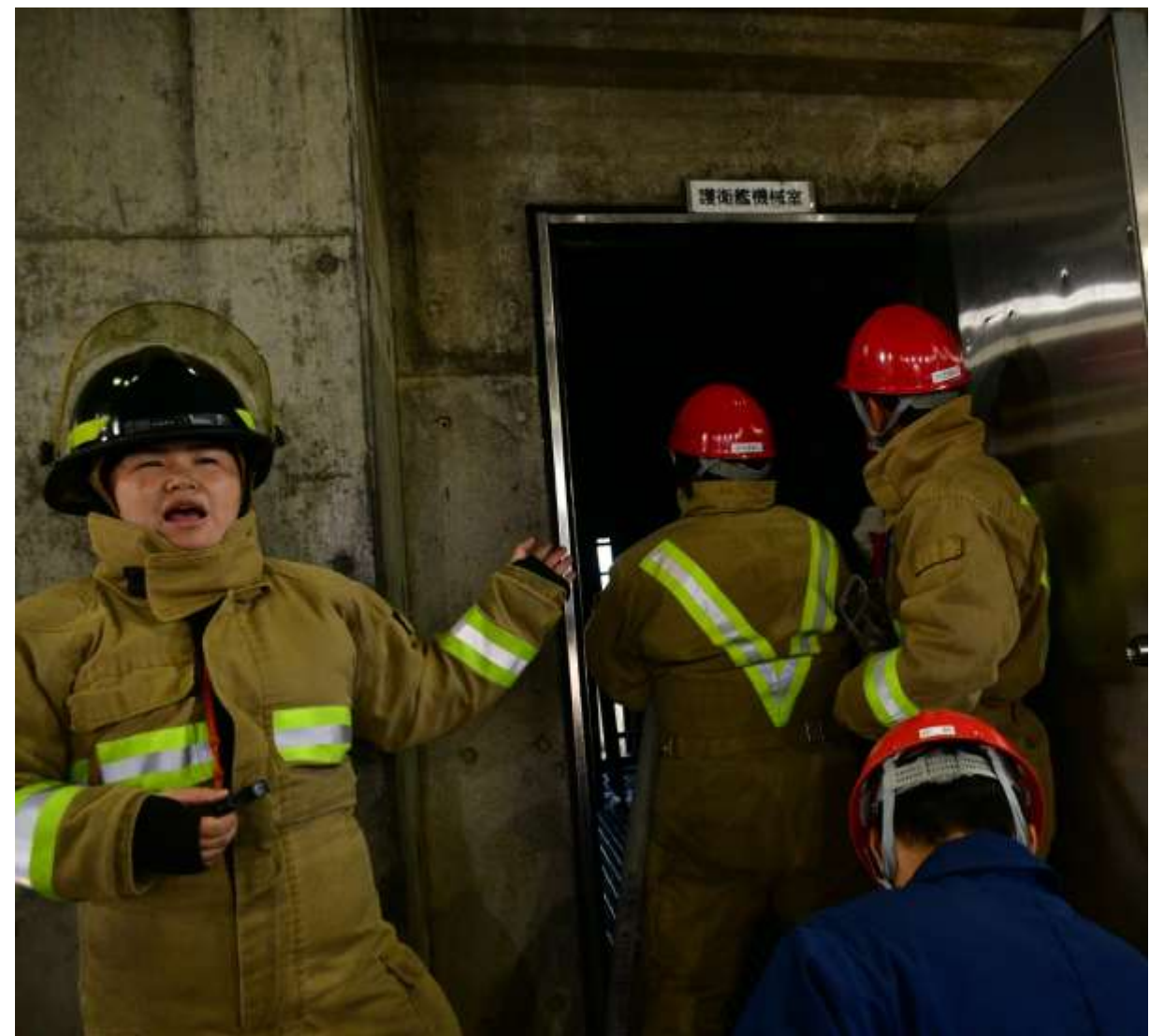


SCBAを背負う時は  
このようにぴよんと跳ね  
た勢いでベルトをぎゅん  
と引っ張り体にフィット  
させます。慣れるまで意  
外と難しいです。

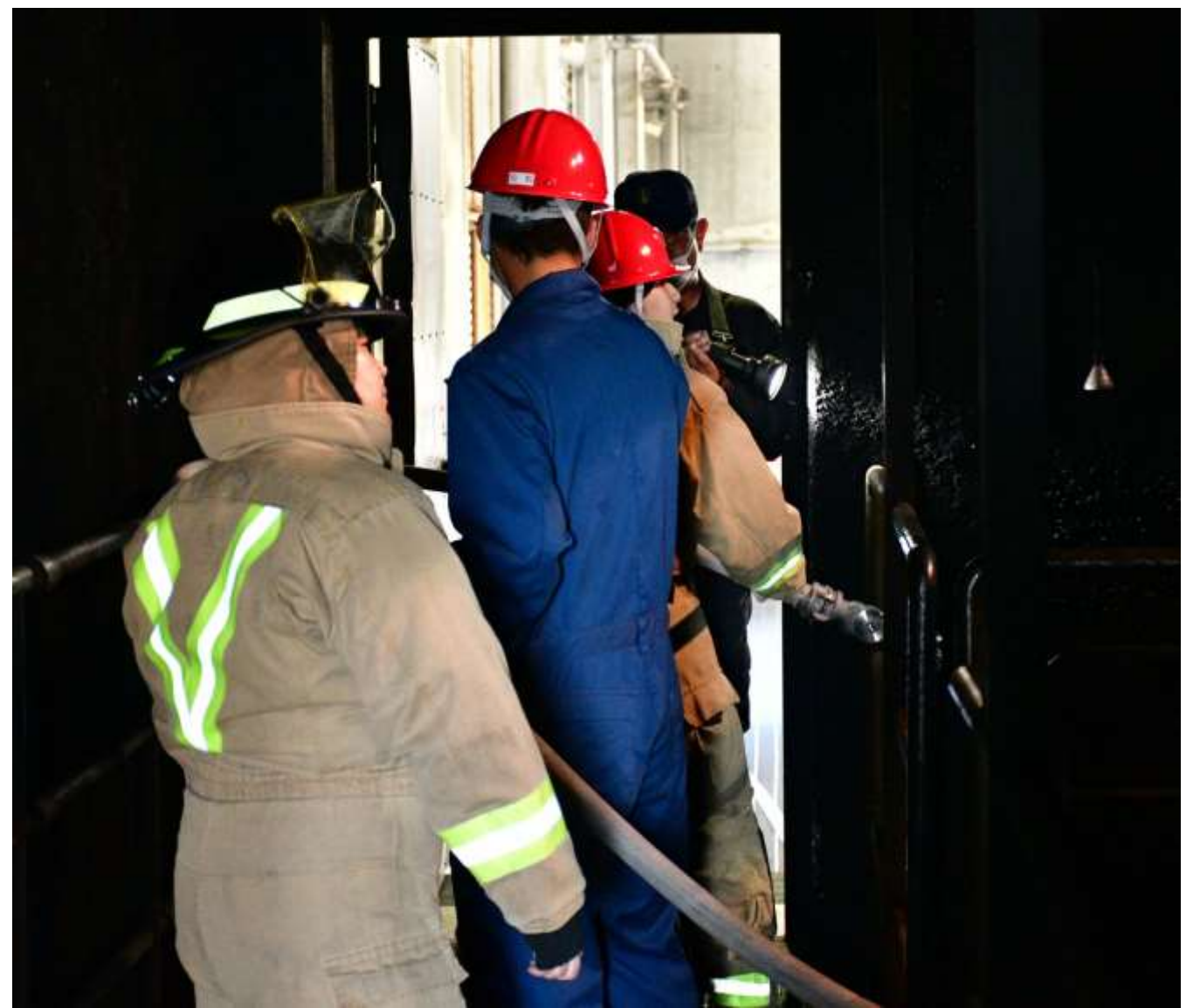




ガスマスクのような物はフェイスピースといい、顔を熱気から守り、供給される空気が漏れないようにする装備です。しっかりと締め付け密着させ、レギュレータという空気を供給させる装置を取り付ける穴の部分を手でふさぎ、漏れがないか確認します。これを怠ると隙間から空気が漏れ、ボンベの空気を必要以上に消費したり、煙や有害ガスが流入してしまう恐れがあるので危険です。



今回消火作業を行うのは、護衛艦機械室です。防火訓練場の中では、初めに全般説明、続いて教官による消火作業の流れの展示を行いました。



消火作業はホース2本を用いてノズルは万能ノズルとアプリケーションターの2種類を使用します。まずは火をつけていない状態での消火作業の流れをリハーサルのような形で訓練します。



「チャージ」という号令と共にノズルのハンドルを開放し、消火作業に備えます。万能ノズルが前方向に噴射するのに対しアプリケーションが横方向に放射状の水霧を噴射し炎から身を守る水の壁の役割をします。また、狭い隙間など万能ノズルで消火しきれないところも消火します。



息を合わせて前進し火元に突入します。



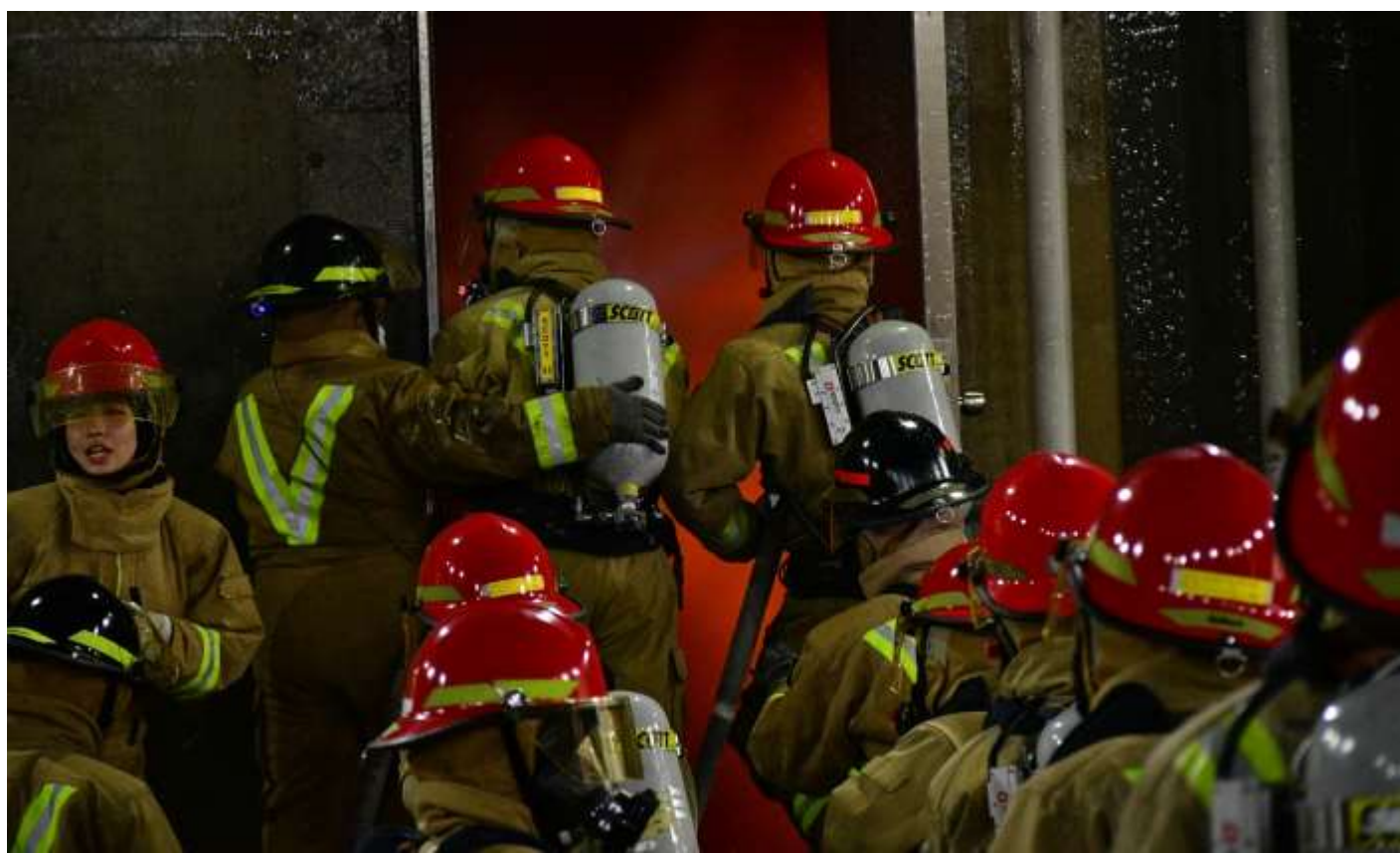
訓練の妨げになるので機械室内の様子は撮影できませんでしたが、数カ所の火元を一カ所ずつ制圧していき、残り火の確認をして消火完了、退出し、異状の有無の確認という流れで作業を実施します。午後はいよいよ実際火をつけての訓練となります。







命を預けることになる装備、装着前のチェック、装着後も相互確認までしっかりと行います。準備完了したら、満を持して本番です。





火災鎮火後、定位置まで戻り、ヘルメット、フェイスピースを外し、顔が見える状態で異常の有無を確認します。



戦い（訓練）を終えた戦士（学生）達が使用済みボンベを携えて出てきました。自分達力で火を消せたという自信に満ち溢れた、一つ大人になったような表情をしていました(笑)



↓ 汗で色変わってます ↓



訓練場から出てきた学生達を、先に訓練を終えた学生が労い、防火衣を脱ぐのを手伝ってあげていました。自然とできるのは素敵ですね。

オ マ ケ



教官は特別待遇で5人がかりでひん剥かれました。班員から愛されている証拠ですね(笑) 皆さん訓練お疲れさまでした！